

(別紙12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	東北地方整備局酒田港湾事務所
実習期間	平成30年2月19日 ～ 平成30年2月23日
学生氏名	阿部文音
実習プログラム	<p>1日目：東北地方整備局の概要・港湾航空行政・予算請求・実施・管理について 現場見学（業務艇みずほに乗船、防波堤、コンテナターミナル、あかりん館、酒田共同火力発電所）、自習、一日のまとめ</p> <p>2日目：自習、組織・港湾管理について、公共工事の契約方式の概要 工務課の尾形さんによるケーソン製作の説明、現場見学（ケーソン製作現場）、予算・契約・支払いについて、自習</p> <p>3日目：自習、補修・財産・物品について、防災対策について 事務副所長講話、技術副所長講話（公共事業と港湾整備について）、港湾計画・広報について</p> <p>4日目：自習、港湾振興（みなとオアシス加茂・酒田・日和山公園） 成果資料作成、所長講話、企画調整課の講話、工務課との座談会</p> <p>5日目：成果資料作成、成果報告会準備、成果報告会</p>
学び・気づき (300字程度)	<p>私はこのインターンシップで積極性を身に着けたいと考えていました。これについては実習先では専門用語が頻繁に利用されており、普段の大学生活ではほとんど耳にしないようなものがほとんどでした。そのため専門用語の意味を知るために担当の公務員の方に積極的に質問することが多くありました。また、港湾事務所の方の講話を聴いている中で自分が疑問に思った部分を積極的に質問したため、自分の知識の幅が広がったように感じた。</p>
今後に向けた抱負 (200字程度)	<p>インターンシップを通しての私の課題は、発表の仕方・資料の作成だと感じました。理由としては、実習最終日に行った成果報告会の際に自分のスライドショーにまとまりがないように感じたからです。資料のまとめ方・発表の方法・発表のポイントなどを簡潔にまとめ尚且つ口頭で説明する部分もスムーズに行えるようになる必要があると感じた。また、これらをよりよくするためにはインターンシップで身に着けた積極性を応用し他の生徒の発表から学ぶべきだと感じました。</p>
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	<p>今回のインターンシップを体験して公務員の仕事というものを自分が思い込んでいたものとは全く違うものであったことです。公務員という仕事は、事務的な業務が主流だと思っていました。しかし、港湾事務所で日々業務にあたっていた公務員の方々は港湾の管理・施設を維持しようとしていました。また、港湾の存在意義や港湾事務所の業務内容を地元の市民の人々に知ってもらうためにイベントや講話を行っていた。ただ単に港湾行政を行うのではなく地域の人々に対しても港湾について理解してもらおうとする姿勢があるからこそ理解を得て港湾の業務にあたることのできるのではないかと感じました。</p>
写真（1～3点）	

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	東北地方整備局 酒田港湾事務所
実習期間	平成 30年 2月 19日 ～ 平成 30年 2月 23日
学生氏名	阿部和葉
実習プログラム	<p>1 日目 東北地方整備局の概要、港湾空港行政、予算要求・実施・管理 現場見学① 港内視察、あかりん館、コンテナターミナル</p> <p>2 日目 組織、港湾の管理、公共工事の契約方式の概要、 現場見学② ケーソン製作、予算・契約・支払い</p> <p>3 日目 補償・財産・物品、防災対策、事務副所長講話、技術副所長講話、 港湾計画・広報</p> <p>4 日目 港湾振興について、成果発表資料作成、所長講話、座談会</p> <p>5 日目 成果発表資料作成、成果発表会</p>
学び・気づき (300 字程度)	<p>今回の実習を通し、港湾事務所の仕事、港湾の重要性と魅力を学ぶことができました。国家公務員の仕事は組織の設置から業務内容・予算の管理に至るまで法律に根拠があることがわかりました。民間の企業とは違った組織や仕事の仕組みについて学んだことを進路選択に活かしていきたいです。また、現場見学を通し公共事業の規模の大きさを実感しました。ケーソン(防波堤・岸壁に使われるコンクリート製の箱)製作現場では、複数の会社の方が共同で作業をしていて、多くのお金・多くの人たちが国の事業に関わっていることがわかりました。港湾の重要性についてのお話では、港湾が生活を支え、災害に対応するための重要な拠点であることを学びました。</p>
今後に向けた 抱負 (200 字程度)	<p>私はタイムマネジメントが自分の課題であると感じました。今回の実習の中で、最終日の成果発表に向け自習時間内で発表資料を作る機会がありました。最初に自分で予定していた時間配分通りに作業を進めることができず、発表の練習に十分な時間を充てることができませんでした。今後に向けた抱負として、遅れや不測の事態に対応できるように余裕を持った予定を立て、状況に応じてその後の予定を調整していくスキルを身に着けたいです。</p>

インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)

所長からお聞きした「民間ではできないような大きなものを作る」ということがこの仕事の大きな魅力だと感じました。自分たちが携わった社会基盤が街を変え、人々の生活を変えていくというのは国土交通省ならではのやりがいだと思います。実習ではそれぞれの課の仕事について幅広い分野のお話をお聞きすることができました。その中で、「地域の方々に港の魅力を知ってもらう」「国の仕事を理解してもらう」活動も港湾事務所の仕事であることを知り、地域に根差し、地域を盛り上げる仕事することに事務所の方々の熱意を感じました。港湾の利用や防災に興味のある方に加え、行政と民間のつながりに関心がある方にもお勧めのインターンシップ先です。

写真 (1~3点)



岸壁工事の様子



防波堤見学の様子

(別紙12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	東北地方整備局酒田港湾事務所
実習期間	平成 30年 2月 19日 ～ 平成 30年 2月 23日
学生氏名	木村 然里
実習プログラム	1日目 オリエンテーション、東北地方整備局についての講義、港湾空港行政についての講義、予算要求・実施・管理についての講義、現場見学(業務廷「みずほ」による港内視察、酒田共同火力のあかりん館視察、コンテナターミナル視察) 2日目 組織、港湾の管理についての講義、公共工事の契約法式の概要についての講義、岸壁築造についての講義、現場見学(ケーソン製作現場視察)、予算・契約・支払いについての講義 3日目 補償、財産、物品についての講義、防災対策についての講義、事務副所長の講話、公共事業と港湾整備についての講義、港湾計画、広報について講義 4日目 港湾振興についての講義(みなとオアシス加茂、酒田の視察含む)、所長と講話、意見交換会、成果発表資料作成 5日目 成果発表資料作成、発表準備、成果発表
学び・気づき (300字程度)	港は普段いくところではないので講義を聞いて理解はできてもイメージがつきにくかったが現場見学で様々な所を視察することで、本物のケーソンの大きさはどれくらいか、なぜ酒田港は港が二つあるのか等の疑問が解消されていき楽しかった。業務廷で防波堤に行った時は防波堤よりも沖側は波が強く、逆に港側は穏やかなことを実感できたので実際に現地に行くことの大切さを学んだ。 酒田港はコンテナの取扱量の増加やクルーズ船寄港の増加によって近年注目されており、今後の酒田の発展を担う重要な港であることを知った。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	今回の実習では私の他にも二名の方が一緒に実習に参加しており、二名の方は多くの質問を職員の方々に投げかけていたが私は質問することが出来なかった。質問する力が足りないことを実感したので、図書館や進路センターにある新聞を読んで全国だけでなく地域の情報も収集し、発想力を身に着けたい。 また、将来に向けて真剣に考えたいと思った。そのためには興味のある職に就くことが重要なので、三年生のうちにいろんな場所に行き自分の興味のある分野を探したい。

インターンシップをして気づいた、実習先の魅力
(300字)

この職場の魅力はスケールの大きな仕事ができる所だと思う。港の整備に用いる機械、製作するものの大きさは普通の公務員ではほとんど目にする機会がないと思うので、楽しく仕事ができるのではないだろうか。また、大きな物を作ったやりがいや達成感はとても大きいものだろう。
他の魅力は様々な機関の人間と関われる所だと思う。港の整備は国だけでなく県も行う。そのほかにも誘致する企業やクルーズ船の関係者等幅広いジャンルの人と関わりを持つことができる。様々な人間との関わりによって人間的に成長できるはずだ。

写真 (1~3点)

フローティングドッグ、ケーソン製作現場



(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

実習企業・機関	東北地方整備局酒田港湾事務所
実習期間	平成 29 年 2 月 20 日 ～ 平成 29 年 2 月 24 日
学生氏名	太田直希
実習プログラム	<p>2月20日（月）</p> <ul style="list-style-type: none">・オリエンテーション・事務所の説明・学習テーマの設定・公務員倫理について・港湾空港行政について、港湾計画について・所長講話 <p>2月21日（火）</p> <ul style="list-style-type: none">・災害対策について・予算・契約・支払いについて・総合評価について・港湾管理について <p>2月22日（水）</p> <ul style="list-style-type: none">・現場見学 古湊岸壁・情報管理について・事務副講話・現場見学 酒田共同火力 <p>2月23日（木）</p> <ul style="list-style-type: none">・現場見学 展望台・コンテナターミナル・作業ヤード・予算要求・実施・管理について・現場見学 西南商事・気象海象装置・マフコタワーについて・成果発表資料作成準備 <p>2月24日（金）</p> <ul style="list-style-type: none">・技副講話・成果発表資料作成・成果発表
学び・気づき	1日目では、インターンシップ初日ということもあり、緊張した。専門用語が多く、理解することに苦労した。専門用語を一つずつ覚えていく必要がある。質問をすることによって理解が深まることが多くあり、積

	<p>極的な関わりが大切だと感じた。</p> <p>2日目では、1日目の反省を踏まえたうえで、分からないことを積極的に質問することができた。様々な業務について体験しているので、覚えた内容を整理していくことが大変だ。</p> <p>3日目では、実際に現場に出て作業するのは、座学とは異なる体験になった。自分の目で見て、学ぶことでより理解が深まった。現場見学した企業の仕事内容について知ることができるので、就活に向けた企業研究になった。</p> <p>4日目では、工事現場を見学して、港湾工事の規模の大きさを実感できた。雨が降っていたので、カメラで写真を撮り、メモの代わりに記録した。インターンシップ最終日には成果発表があるので、写真を有効に活用した。</p> <p>5日目では、成果発表資料作成と成果発表をした。プレゼン作成において、写真や表を使い、文章を簡潔するように心掛けた。プレゼン発表では、緊張したが、プレゼン発表の練習をしたことで落ち着いて発表することができた。</p>
<p>今後に向けた 抱負</p>	<p>公務員という仕事に対してのイメージが変わった。事務所で働く人を観察すると、仕事の内容において取り扱い先との電話でのやりとりが多いことに驚いた。事務所以外にも現場見学にいった時に他の企業との名刺交換をする機会があった。名刺交換は今までやったことがなく手間取ってしまった。もう少しスムーズに名刺交換できるようにしたい。これから就職活動を行っていく際には、関心のある企業についての就活ノートを作り、その企業に対しての企業研究を積極的に行いたい。</p>
<p>インターンシッ プをして気づい た、実習先の魅 力</p>	<p>日本の貿易量の99.6%は港湾を経由している。港湾は日本の貿易において、港は物流の拠点となっている。港を通じて、人のために働くことができ、やりがいのある仕事になっている。港湾事務所では、津波防災システムを利用し、災害対策をして、人々の暮らしを守っている。港湾事務所には総務課、品質管理課、工務課、企画調整課、保全課、沿岸防災対策室の6つの課がある。6つの課がお互いに助け合い、港を支えている。国家公務員として、地域に携わっているので、社会的信用がある。</p>